

祝 辞



日本大学学長 酒井 健夫

このたび、『日本大学松戸歯学部同窓会会誌』が第100号を迎えられました。心よりお祝い申し上げます。同窓会の皆様方の母校愛と“絆”の強さ、そして、その活動を支えてこられた関係者各位のご努力に対し敬意を表します。

昭和30年代から40年代にかけての日本は、人口に対する歯科医師の割合は低く、その養成体制も極めて脆弱でした。このような状況に対して、第6代総長である鈴木勝先生のご提唱により、日本大学松戸歯学部(前身は日本大学松戸歯科大学)が、1971(昭和46)年に創設されました。教育理念を「オーラルサイエンス(口腔科学)」とし、知識・技術の修得だけでなく、「人間性豊かな、広く社会に貢献できる歯科医師の育成」を目標としました。

2006(平成18)年に竣工した新付属病院は、複雑化・多様化する社会のニーズに対応しており、来院患者数は全国の歯学部付属病院でトップクラスを誇り、地域歯科医療の中核を担っています。また、部科校との連携を図るため、薬学部生への解剖学実習の見学、運動部学生への口腔の健康維持・管理のサポートなどを実施しています。

松戸歯学部は、2021(令和3)年には創設50周年を迎え、6,000名を超える卒業生は国内外で活躍し、多くの先生方が歯科学会及び歯科医療界で中心的な役割を担っておられます。同窓会は、一期生が卒業を迎えた1977(昭和52)年に、「歯科界と母校の発展」及び「会員相互の親睦」を主目的にスタートしました。現在、全国の支部では、「生涯研修セミナー」、「学術講演会」、「保険講習会」、「懇親旅行」、「在学生の支援」等を行い、最新の医療情報の提供や会員間の懇親を行っています。

さて、日本大学は、数年にわたり不祥事が続き、校友の皆様方には大変なご心配とご迷惑をおかけいたしました。昨年7月に新体制が発足し、学内外の声に耳を傾けながら「教学優先」の再生・復興のため「日本大学ルネサンス計画」を、スピード感をもって進めております。今後とも皆様方のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

結びに、日本大学松戸歯学部同窓会と会員の皆様方の一層のご発展をお祈りし、私のご挨拶といたします。